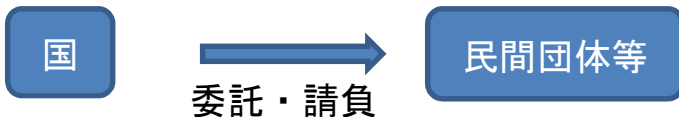


<事業の背景・内容>

- 東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業においては、燃料デブリ(核燃料と炉内構造物やコンクリート等が溶融し再度固化したもの)をはじめ、サイト内の滞留水、未処理水、ガレキ等の多様な放射性廃棄物等を安全に取り扱わなければなりません。このような放射性廃棄物等の処理・管理・輸送に係る規制当局としての技術的な着眼点を抽出するため、調査・解析・実験を実施することで、廃炉作業の安全性向上に資する基礎データを取得します。なお、燃料デブリについてはその性状(核燃料や炉内構造物の混合割合など)の組合せによって、燃料デブリの放射線の放出挙動が変わることから、実験データを取得することで、安全に取り出せる燃料デブリの量を評価していきます。(図1)
- 廃炉作業の進捗に伴い可能となった現地調査や事故試料分析などを行うことで、継続的に事故の原因究明を行い、廃炉作業の安全性や今後の原子力規制の向上に資します。国会・政府事故調において引き続き検証等が必要とされた事項等について詳細な分析・評価を行うとともに、事故時の放射性物質の漏えい経路等の事故の原因究明に資する知見を取得します。

<条件(対象者、対象行為、補助率等)>



<事業のスキーム、具体的な成果イメージ>

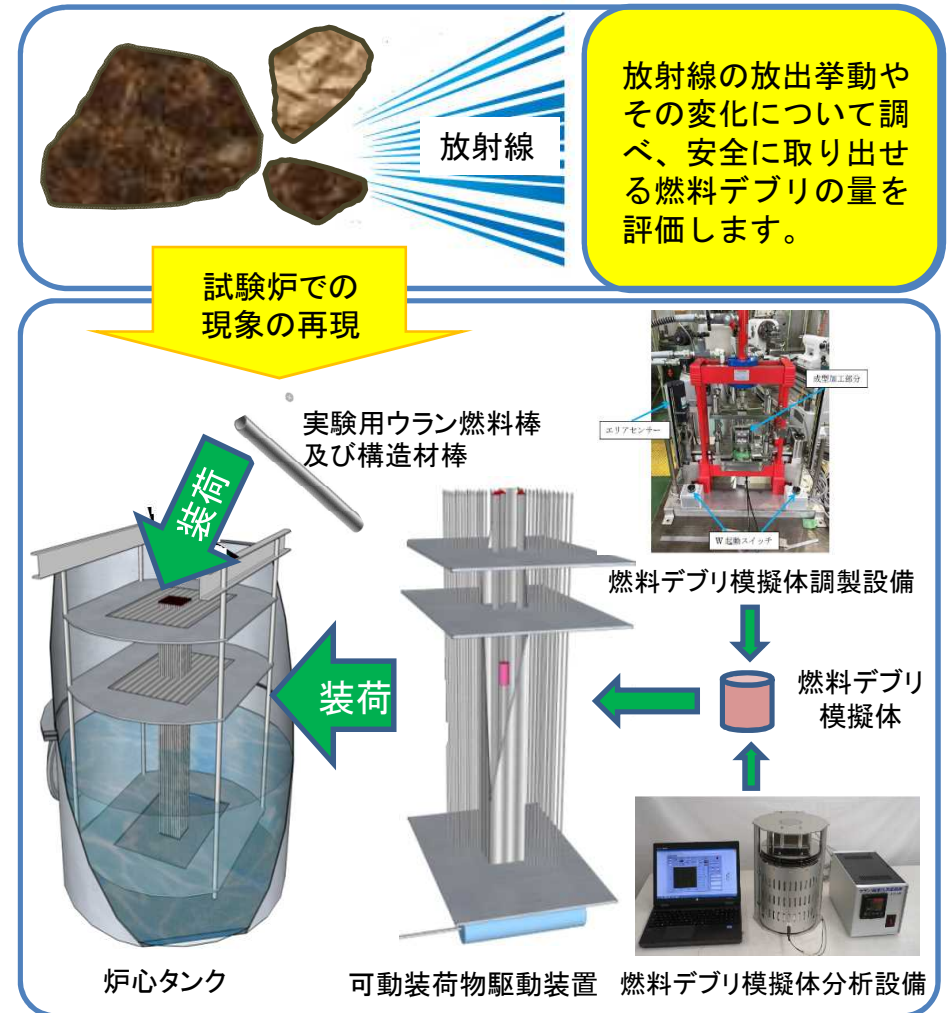


図1 試験炉における燃料デブリ模擬体を用いた実験の進め方例
(一部国立研究開発法人日本原子力研究開発機構の公開資料より抜粋)